



ご挨拶

増岡組は、明治 21 年に広島県呉市で創立した増岡商店を前身とし、
明治 41 年から建設業を開始致しました。

この度、創業 110 周年を迎えることが出来たのは、皆様のご指導の賜物と心より御礼申し上げます。

その感謝の気持ちから、平成 30 年 6 月 5 日より 7 日まで、広島市のランドマークでもあり、
弊社が建設に携わった、広島東洋カープの本拠地マツダスタジアムに於いて、
未来の環境を考える「キャンプ里地・里山」を開催させて頂きました。

ここでは、その様子を紹介させていただきます。





私たち建設産業は建造物の整備を通じて、人々の安全で安心な暮らしを守り経済の持続的な成長を支えて行く役割を担い、地域の一員として社会生活基盤及び社会経済産業基盤の維持や防災減災対策、災害時の復旧・復興を行い環境や事業の継続性、国民生活や経済活動の再建の一端を担っています。

そして、地球規模で環境問題が大きく取り上げられている現在、私たち増岡組は、人や建設も自然生態系を構成するひとつと捉え、より良い環境づくりを目指し豊かな自然を守るため、2005年に環境技術研究所を設立し、生物多様性についての研究を重ねています。

当環境技術研究所は約 78,000 m²の広大なビオトープで構成されており、日本の蝶種の約5分の1が生息している等、多様な種類の生物を観察できるホットスポットになっています。

ここでは現在絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類・VU）となっている黒メダカも生息しており、保全のため攪乱を行う際、小中学校にこれを寄贈させて頂き「めだか交流会」として、自然環境保護についての講座を行っています。

今回の弊社創業 110 周年記念事業「キャンプ里山・里地」は、この経験を基に今年度プロ野球セントラルリーグ 3 連覇を果たした、広島東洋カープの本拠地マツダスタジアムで、プロ野球の試合中、里地ゾーン、里山ゾーンの 2 か所で開催しました。黒メダカを象徴種とした「里地ゾーン」とホタルを象徴種とした「里山ゾーン」には、環境技術研究所に生息する多くの生物を展示した他、自然環境についてのセミナーや田植え体験等を行い、かつて身近にあった自然を体験して頂き、この様な環境の大切さを知って頂く機会と致しました。





イベントロゴ／制作意図

中央には「里地」や「里山」を感じさせ、幸せや幸運のシンボルでもある「四葉のクローバー」をアクセントとし、周りに本イベントのコンテンツにちなんだ「メダカ」や「ホタル」のイラストをデザインし、体験意欲や期待感を醸成しました。そして、子供たちが楽しめる雰囲気イベントであることをカラフルな色使いで表現しました。





実施概要

- タイトル／キャンプ里山・里地
- 実施日時／ 2018 年 6 月
5 日(火)～7 日(木)10:00 ～ 22:00
- 実施場所／ MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
屋内練習場歩行デッキ(里地ゾーン)
コンコースグッズショップ周辺(里山ゾーン)
- 来場者数／約 6,000 名(3 日間合計)

■ 実施目的／私たち増岡組は建設技術を基に「環境技術研究所」を設立し、生物多様性に関わる研究も進めています。

創業 110 周年を迎えるこの節目に、次世代を担う子供たちに同研究所を構成するビオトープに棲む生き物に触れてもらうことで、かつては身近にあった自然環境の大切さを伝えたいと考えました。この催しを、誰もが知るマツダスタジアムにおいて野球の試合日程に合わせて実施することで、より多くの方々に体験していただけることを目的に計画いたしました。





さとち 里地 ゾーン

「メダカ」を象徴種として昔ながらの農村風景を再現しました。

里地では、人の営みの中で、たくさんの生き物たちが一緒に暮らしていました。ここでは田んぼやため池、草原などの場所を再現し、見たりさわったりして里地を体験できるようにしました。



球場外にある屋内練習場
歩行デッキに「里地ゾーン」
は設営されました。

里地ゾーンの中心部、田畑やあぜ道の風景パネルの小窓を覗くと、その景色の環境下に暮らしている生き物が実際に説明パネルと一緒に見ながら学ぶことが出来る展示コーナーです。



展示-1

メダカトンネル



底まで透けている細長い水槽内に、小川の植物とともにメダカを放流し、メダカの視線を体験できるコーナーです。



水槽の中にはできるだけ自然に近い環境を整え、そこにメダカを放流しています。大きな水槽の中でメダカが泳ぐ姿を側面からだけでなく、下からも見上げられるようにすることで、自然の中で泳ぐ姿を観察できるようにしました。



呉市の山中にある
増岡組環境技術研究所
(エコラボ) のビオトープ
に生息するメダカたち。



近くの小学校の生徒さんたちには「メダカ交流会」の体験学習として楽しく学んで頂きました。

近隣幼稚園の園児たちはメダカトンネルの水槽の下から興味津々に見上げています。



展示-2

里地の生物展示



里地の風景写真を背景に、田んぼやため池に生息する水生昆虫をはじめとする里地の生き物を展示しました。



田んぼの水の中に暮らす水生昆虫を生き物ごとに展示。ケースの中で隠れている生き物を探し出すのも楽しい。



展示の中には最近では見かけない珍しい生き物たちの展示もあり子供はもちろん、大人も食い入るように観察しています。



展示生物

キリギリス・ハグロトンボ（ヤゴ）・タニシ・タイコウチ・アメンボ・ミナミヌマエビ・ガムシ・アカハライモリ・トノサマガエル・ハンミョウ

展示-3

田植え体験

ミニ田んぼやバケツ稲（田んぼバケツ）で本物の稲を使った田植え体験が可能なスペースを作りました。



日本人がほぼ毎日食べるお米を作るため、稲の苗を水田に植える作業が「田植え」です。この田植え作業を通して、自然そのものや日々の食べ物にも興味を持ってもらいたいと期待しています。



バケツ稲で苗をひとつずつ植える幼稚園児たち。この苗が健やかに育って美味しいお米になるのです。

ミニ田んぼで土に親しむ小学生の様子。実際に土や稲に触れることで五感を使って田植えを学んでもらいました。



展示-4

里地体験



ため池や草原、林を再現した展示型ビオトープです。

池には実際に触れ合えるよう、メダカ・アカハライモリ・おたまじゃくし・ヤゴ・スジエビといった水生生物を放し、その周りにカエル・イシガメ・カブトムシ・クワガタ・チョウ・トンボ・バッタ・カタツムリ等の里山の生物を展示しました。



池の中の水生生物を網で捕まえ、小さな水槽に移して里地の生き物をじっくり観察できるスペースです。



ビオトープとは生き物が群集している空間や場所のこと。自然の生態系に直接触れられる貴重な機会になりました。



イベント

セミナーコーナー



近隣の小学校や幼稚園の子供たちを招待し、展示の意義や展示生物をより理解してもらうためのセミナーを開催しました。

セミナー会場



展示のほか、TVモニターを使って「メダカセミナー」も開催されました。増岡組のエコラボ天水池に生息する貴重な野生の「クロメダカ」についてなど、さらに詳しく学んでもらいました。



近くの小学校から全校生徒約100名が来場し、メダカセミナー、田植え体験、ビオトープを通じて里地を学習。興味深く話を聞く姿が印象的でした。



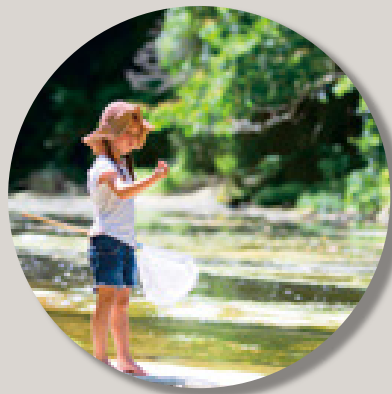
Camp

SATOCHI & SATOYAMA



At MAZDA ZOOM ZOOM Stadium HIROSHIMA





里山ゾーンは「ホタル」を象徴種として、かつては身近にあった裏山を再現しました。木を切ったり、落ち葉を集めたりという人との関わり合いで里山は守られてきました。そこにはきれいな小川があり、ホタルが棲んでいます。ここでは夜に光ってお話するホタルの光を体験しました。また「自然はすごい!!クイズラリー」コーナーを設け、カープグッズをプレゼントしました。

入場
ゲート



「里山」ゾーンは裏山の森林や山間のきれいな小川を再現。里地とはまた違った「里山」で暮らす生き物や生態系を学べるエリアです。

球場内コンコースのグッズショップ周辺に設営された里山ゾーン。裏山の生き物に出会うための入場口です。



展示-1

里山の生物展示



山間のせせらぎを感じる風景写真を背景に、裏山に生息する水生昆虫をはじめとする里山の生き物を展示しました。



里山の大きな特徴はきれいな水辺を有していること。そのため水辺で産卵し生息する生き物が多く存在しています。展示生物は多くの大人が幼少期に触れたことのある生き物ばかり。初めて出会う子供は物珍しそうに、大人は懐かしい面持ちで生き物たちの展示をじっくりと観察しています。



展示生物

ゲンゴロウ・ニホンアカガエル・ヒラタクワガタ・カブトムシ・タガメ・オニヤンマ(ヤゴ)・スジシマドジョウ・テナガエビ・カワニナ・オヤニラミ



ホタル対話



ホタルとの対話

ホタルの点灯は仲間とのコミュニケーションです。暗室の中に本物のホタルを多数展示し、淡い光を体験していただきました。



残念ながらこの写真には写っていませんが、ケージの中に放たれた実際のホタルの優しい光を楽しんでいる様子です。



きれいな水辺にしか生息しないホタル。ホタルが暮らすことのできる環境こそが理想の自然環境であると考えます。



ホタル映像紹介

暗室から出てきたバッファゾーンでは、自然の中で乱舞するホタルの最盛期の映像を流します。このようにホタルが舞う美しい環境を次の世代に伝えていきたいというメッセージが込められています。



クイズラリー



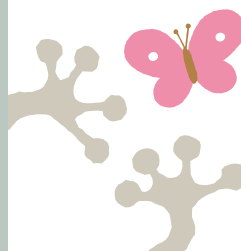
場内 3 箇所にクイズパネルを設け、クイズにお答えいただくとカーブと増岡組がコラボしたノベルティが当たるお楽しみも用意しました。



「キャンプ里地・里山」の展示でしっかりと学んでくださった方には簡単なクイズが 3 問出されるクイズラリー。カーブと増岡組の珍しいコラボグッズをお目当てに、各ブースには行列も。



カーブと増岡組がコラボしたノベルティグッズ。ホタルに扮したスライリーやカーブ坊やが描かれたミニタオル、ホタルをイメージした光るブレスレットなどが配布され、来場者に喜ばれました。



キャンプ 里地・里山

当日資料

増岡組のお仕事

ヒューマン・コンストラクション。それが私たちの原点です。

広島市民球場

(Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島)



広島市民球場として、かつての広島東洋カープ球場に建設が決定したのは2007年11月です。カープファンの夢を叶え、2009年3月21日に完成式の日を迎え、2009年4月10日開幕戦に広島第一戦のプレイボールがあげられました。完成後も、順応に応じて、今後も「緑のふれあい」「エコのスタジアム」をテーマに、広大な緑地の環境を、その他の球場では体験できない、ボールパークです。

旧広島市民球場

(1957年～2009年)



1949年に建設された広島カープ球場。対する熱心なファンは、1957年にチーム球場建設計画がスタートしました。中野地区の半田市民球場建設として、ライオン球場を模した広島市民球場です。当時建設中の東洋カープは、1957年より1961年に、日本プロ野球 セントラルリーグの広島東洋カープの公式戦会場として、2009年9月10日まで使われていました。

キャンプ 里地・里山

開催日程 2018年 6月5日(火)～7日(木)
MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島

MAZDA Zoom-Zoom 110周年
ANNIVERSARY
MASUOKA Architectural Contractors Inc.
増岡組



ごあいさつ

株式会社増岡組は、明治21年に広島県呉市で創立した増岡商店を前身とし、明治41年に建設業をはじめました。この度、創業110周年を迎えることが出来ましたのは、皆さまの御指導のおかげと、心より御礼申し上げます。その感謝の気持ちから今回、ここマツダスタジアムにおきまして「キャンプ里地・里山」を開催させていただきます。

MASUOKA Architectural Contractors Inc.
増岡組

イベントのご案内

里地ゾーン

6/5(火)～7(木) 10:00～22:00

里地ゾーンは、昔ながらの農村風景を再現しています。里地には、人の営みの中で、たくさんの生き物たちが一緒に暮らしています。ここでは、田んぼや生き物の種を体験しています。里地に住むメダカと色々な生き物たちがいます。見て、さわって、里地を体験してください。

入場無料

里内練習場歩行デッキ

里山ゾーン

6/5(火)～7(木) 15:00～22:00

里山ゾーンは、かつては身近にあった里山を再現しています。木を切ったり、落ち葉を集めたりして、人との関わりで里山は育ちました。そこには、きれいな小川が流れて、ホタルが暮らしています。ホタルは、夜に光って見えます。その光を見て、ホタルの語らうてみてください。「自然はすごい!!」タイズラリーで、カープ景品をプレゼント!!

入場無料

※「里山ゾーン」の入場は無料です。広島市民球場に入場するためのチケットが必要です。

イベント内容

メダカの観察コーナー メダカ観察・メダカの生態・メダカの飼育	里地の生物たちコーナー 里地の生物たちを観察・里地の生物たちを飼育
田んぼ体験コーナー 田んぼ体験	セミナーコーナー 里地と暮らしとセミナー
里地体験コーナー 里地体験	里山体験コーナー 里山体験

※各コーナーの運営はイメージです。

コンコースグッズショップ 周辺

イベント内容

里山の生物たちコーナー 里山の生物たちを観察・里山の生物たちを飼育	ホタル対話コーナー ホタルの生態・ホタルの飼育
ホタル観察コーナー ホタルの生態・ホタルの飼育	自然はすごい!! タイズラリー 自然はすごい!! タイズラリー

※各コーナーの運営はイメージです。

キャンプ 里地里山

当日資料



MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島

【里地ゾーン】 屋内練習場歩行デッキ
【里山ゾーン】 コンコースグッズショップ周辺

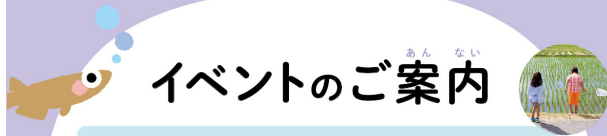
開催期間
6/5 (木)
6/7 (土)

株式会社増岡組は、明治21年に広島県呉市で創立した増岡商店を前身とし、明治41年に建設業をはじめました。

この度、創業110周年を迎えることが出来ましたのは、皆さまの御指導のたまものと、心より御礼申し上げます。

その感謝の気持ちから、今回、ここマツダスタジアムにおきまして、未来の環境を考える「キャンプ里地・里山」を開催させていただきます。



イベントのご案内

里地ゾーン

里地ゾーンは、昔ながらの農村風景を再現しています。里地には、人の営みの手で、たくさんの生き物たちが一緒に暮らしています。ここでは、田んぼや生き物の暮らし場所を作っています。里地に住むメダカと色んな生き物たちがいます。見て、さわって、里地を体験してください。

屋内練習場歩行デッキ

里山ゾーン

里山ゾーンは、かつては身近にあった里山を再現しています。木を切ったり、落ち葉を集めたりして、人との関わりで里山は守られてきました。そこには、きれいな水が流れ、ホタルが暮らしています。ホタルは、夜に光ってお話します。その光を見て、ホタルの話を聞いてみてください。「自然はすごいリサイクル」で、カープグッズをプレゼント!!

イベント内容

メダカの観察コーナー メダカについて学ぶ観察会	里地の生物たちコーナー 里地の生き物について学ぶ観察会
田んぼ体験コーナー 田んぼの生き物について学ぶ観察会	セミナーコーナー 里地の生き物について学ぶ観察会
里地体験コーナー 里地の生き物について学ぶ観察会	コンコースグッズショップ 周辺
里山の生物たちコーナー 里山の生き物について学ぶ観察会	ホタル対話コーナー ホタルの話を聞いてください
ホタル映像コーナー ホタルの映像を鑑賞してください	自然はすごい! クイズラリー 自然に関するクイズを解いてください




キャンパス 里地里山

当日資料

私たち 増岡組のお仕事 ヒューマン・コンシャス。それが私たちの原点です。

広島市民球場 (MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島)



新広島市民球場として、かつての国体競技場跡地に建設が始まったのは2007年11月でした。カープファンの夢を乗せ、2009年3月21日に完成式の日を迎え、2009年4月10日午後6時に歴史的な一戦のプレイボールが告げられました。野球の楽しみ方を、豊かに広げてくれる「绿がふりまわすピッチ」から「増岡組」ならではの、20種類の観客シート、他の球場では体験できない、ボールパークです。

敷地面積	143,600㎡	総工費	約1,000億円
建築面積	40,000㎡	完成式	2009年3月21日
観客席数	42,000席	完成式	2009年3月21日
完成式	2009年3月21日	完成式	2009年3月21日

旧広島市民球場 (1957年～2009年)



1949年に設立された広島カープ球団に対する関心が高まる中、1957年にカープ球場建設計画がスタートしました。当時の広島市の中心部には、球場の建設が困難と見られていました。しかし、当時の市長の vision と、カープファンの熱意により、1957年という非常に早い時期に球場の建設が実現しました。以来、日本プロ野球・セントラルリーグの広島東洋カープの公式戦本拠地として、2009年9月28日まで用いられていました。



その他



カープ由宇練習場



ボールパーク屋内練習場



カープ大野練習場・大野寮

建設会社の役割

建設会社の役割

私たち建設会社は、人々の安全で安心な暮らしを守り、快適な日常生活をおくることができる建物を建設することによって社会に貢献しています。また、地域の一員として様々な災害に対応し、地域の復興のお手伝いも行っています。

そして、地球規模での環境問題が大きく取り上げられている現在、私たち増岡組は、より良い環境づくりを目指し、豊かな自然を守るため、その重要な条件である生物多様性について研究を重ねています。

増岡組の工事実績



広島神社



広島県庁ビル



広島県庁ビル



増岡グループ広島 数棟ビルディング

増岡組の環境技術



河川土壌浄化技術、スマートグリーン・ルーフ、ネットチャージグリーン、エコ・トップ

自然環境の大切さ

私たち増岡組は、人や建設も生態系を構成する一つとらえ、環境技術の研究を行い、社会に提案します。

増岡組環境技術研究所(エコラボ)

増岡組環境技術研究所(エコラボ)のビオトープは、たくさんの種類の生き物を見ることができるオアシススポットになっています。この豊かな地域の生き物の多様性を守ることで、自然がより元気になるようにしています。

生物多様性とは...

その物の自然の中で、種や個体や動物などの生き物たちが暮らしていることです。

●生態系の多様性

エコラボビオトープは、海から連続する森の中で、海、水は、草原、森林、森林など、色々な景色があります。

●種の多様性

エコラボビオトープは、たくさんの種類の生き物たちを飼育することになります。

●遺伝子の多様性

エコラボビオトープは、貴重な野生のメダカが棲む環境を守っています。

チョウから学ぶ生物多様性

エコラボのチョウ

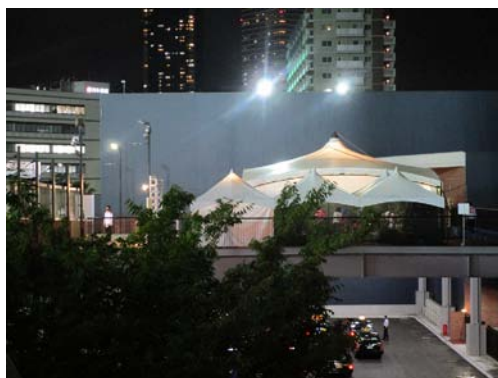


日本のチョウ約240種類の内、50種類がいるよ。

チョウの幼虫は葉っぱを食べますが、たくさん種類があるチョウがいるという事は、色々な種類の葉っぱがある事です。色々な種類の葉っぱがある事は、色々な種類の生き物が暮らす事です。



増岡組創業 110 周年記念イベント「キャンプ里地・里山」は、
3 日間で約 6,000 名ものご来場者を迎えることができ、大盛況の中、無事に終了いたしました。
ご来場頂いた皆様、またイベント開催にお力添えを頂きました皆様に心より御礼申し上げます。
私たち増岡組は、“建設事業における自然環境との調和”を目的に広島県呉市の森林に約 78,000 m²のビオトープを創り、
「増岡組環境技術研究所(エコラボ)」として様々な自然環境に関する研究や保全を行っています。
人も、建設も、生態系を構成するひとつとして捉え、これからも環境技術の研究を進め、社会に提案して参ります。



増岡組環境技術研究所(エコラボ)の活動はこちら

<http://www.ecolab.masuoka-g.co.jp>

